知ることから広がる考え

津和野町立津和野中学校　二年　　山本心香

私は差別に対して無関心でした。自分には関係ないとさえ思っていました。そんな私が「差別はやってはいけない！」と強く思った出来事がありました。

中学一年生の社会の授業で、人種差別について勉強するときに、白人の警察官が黒人の警察官の首をしめて殺してしまう悲惨な動画を見ました。私は動画を見て、とても腹が立つ怒りと、なぜそんなひどいことをするのかが全く分からないという、なんとも言えないもやもやした気持ちになりました。それをきっかけに、差別は自分に関係ないと思うのではなく、世界には差別がたくさんあるということを知りました。

私は、人種差別やジェンダー差別については、聞いて知っていましたが、障がい者差別については詳しく知らなかったので調べてみました。すると、障がい者に対して、暴力や不妊手術などをしていたことが分かりました。私は、そのことを知って、怒りでいっぱいになりました。同じ人間なのに、障がいがあるだけで暴力などたくさんの嫌なことを、なぜされないといけないのか意味が分かりませんでした。さらに、障がいを理由として就職ができなかったり、給料がもらえなくなったり、社会参加が制限されることも知りました。障がい者の方は絶対に嫌だと思うだろうし、自分に対して自信がなくなってしまうのではないかと感じました。

私は今まで、目で分かる障がいが全ての障がいと思っていました。見た目で障がい者と判断していました。そして、私は「かわいそう」と心で思っていたのです。数ヶ月後にＳＮＳの動画を見ていると、耳が聞こえない人が「耳が聞こえないからかわいそうって思われたくない。」「見た目だけで判断しないでほしい。」と言っていたときに、まるで私に言っているように聞こえました。その動画を見て、自分は声が聞こえるから、自分は目が見えるから、などと勝手に自分だけの思いで障がいのある方々を傷つけていることが分かりました。これが差別なのかと感じました。私も差別をしていたのです。私は、差別に対して無関心ではありましたが、自分自身は差別なんて絶対にしていないと思っていたので、ショックでした。目に見えるものが全ての障がいというわけでもなく、目に見えない障がいもたくさんあることを知りました。この体験から、自分が知らないことがまだたくさんあることに気づくことができました。

世の中の人々は、自分は百％差別をしていないと言えるでしょうか？　私自身は正直、差別を百％していないとは言い切れません。心の中で「怖い」と思ったり、目をそらしたりした経験があるからです。自分ではただ思っただけかもしれませんが、相手の方は差別されたと思ってしまうかもしれません。自分と相手の基準は違います。少しでも言葉の使い方、行動を間違えてしまうと差別になるかもしれません。だから私は、言葉に出す前に、こんな言葉の使い方をしたら、相手が傷つくかな、と考えてから話すようにしています。普段の生活で家族や友人と話すときも、皆基準は違うので、相手のことを思って丁寧に話すように心が

けています。

差別の種類を調べると、人種差別、民族差別、宗教・文化差別、性差別、おたく差別などがありました。中でも私が初めて知ったのは、「おたく差別」です。自分の趣味や好きな人のことに没頭する人に、どうして差別をするのか全然分かりません。現代に新しく出てきた「おたく差別」があるということは、この先も時代が進んでいくと、また新しく人を蔑む差別が出てくるのだろうかと不安になってしまいます。

私は、社会の授業で人種差別について知り、怒りと同時に差別について知りたいと思うようになりました。「知る」ということは、とても大切だと思います。障がいや差別について知ることができたので、次は行動です。私は、自分が言ったことは相手にとって、どう思うのかを考え、一つ一つの言葉に責任を持ちたいです。

私は将来、誰かを助ける仕事に就きたいと考えています。そして、勇気を与えられる仕事に就きたいです。私の母は、介護の仕事をしています。困っている人がいると、優しく声をかけたり、手を貸したりしている姿を見て、私も母のように誰かを助ける仕事に就きたいと思うようになりました。

差別は、自分には関係ないと思うのではなく、少しでもいろいろな差別について知ってほしいです。法律で決められるのではなくても、差別という名前がつけられなくても、人が傷ついたり嫌な思いをしたりしないように、世の中の人々がお互いに自然と意識できるようにしたいです。私は、世界に差別をする人がいなくなって傷つく人もいなくなる世界にしたいです。差別は、絶対にやってはいけない！　私は、強く思うのです。